

ページなど	誤	正	備考	摘要
P142 2.2.4解説	下から5行目 したがって、その場合には、 <u>検層</u> 等から求められる…	したがって、その場合には、 <u>速度検層</u> 等から求められる…	検層→速度検層	第2刷で修正
P163 4.2解説	19行目 2)本編では…適用するものと規定としている。	2)本編では…適用するものと規定している。	「と」を削除	第2刷で修正
P166 4.3解説	上から1行目 なお、この許容応力度は、…	なお、1)の許容応力度は、…	この→1)の	第3刷で修正
P167 表-4.4.1	タイトル 表-4.4.1 構造用鋼材の許容応力(N/mm <sup>2</sup> )	タイトル 表-4.4.1 構造用鋼材の許容応力度(N/mm <sup>2</sup> )	許容応力 →許容応力度	第2刷で修正
P193 7.7(3)	6行目 (3)次による場合においては、…	(3)次による場合においては、…	場合→場合に	第3刷で修正
P196 7.8解説	④継手機構が所要の性能を発揮するための <u>定着部</u> 周辺のコンクリートの…	④継手機構が所要の性能を発揮するための <u>継手部</u> 周辺のコンクリートの…	定着部→継手部	第2刷で修正
P202 7.10解説 図-解7.10.2の 左図	図-解7.10.2の左の図	(線が消えかかっている)	線を濃くする	第2刷で修正
P264 8.9解説	7から8行目 (3)…地震後における避難路や救助・救急・医療・消火 活動及び被災地への <u>緊急物資としての輸送路</u> として の役割が大きいことから、…	(3)…地震後における避難路や救助・救急・医療・消火 活動及び被災地への <u>緊急物資の輸送路</u> としての役割 が大きいことから、…	緊急物資としての →緊急物資の	第2刷で修正
P268 9.1解説	28から29行目 しかし、 <u>岩盤</u> と場所打ち杭工法を用いた場合の岩盤 中の周面抵抗に関するデータは…	しかし、場所打ち杭工法を用いた場合の岩盤中の周 面抵抗に関するデータは…	「岩盤と」を削除	第3刷で修正
P279 9.4解説 iv)	14～15行目 基礎幅(表一解9.6.2に示す換算載荷幅としてよい)	基礎幅(基礎の換算載荷幅B <sub>v</sub> としてよい)	表一解9.6.2に示す 換算載荷幅→基礎 の換算載荷幅B <sub>v</sub>	第7刷で修正
P281 9.5解説	12～13行目 …その場合に考慮すべき事項を1)から4)として規定 している。	…その場合に考慮すべき事項を1)から5)として規定 している。	4)→5)	第3刷で修正
P290 9.9解説	下から1行目 …式(解9.9.1)の準用により改良範囲・改良率・改良強 度等の <u>使用</u> を定めた場合、…	…式(解9.9.1)の準用により改良範囲・改良率・改良強 度等の <u>仕様</u> を定めた場合、…	使用→仕様	第3刷で修正

ページなど	誤	正	備考	摘要
P400 12.4.3解説	2～3行目 最大周面摩擦力度は表-解12.4.6に準じて計算するが、N値が2以下の軟弱層においては、…	最大周面摩擦力度は表-解12.4.6に準じて計算するが、N値が5未満の軟弱層においては、…	2以下→5未満	第3刷で修正
P421 12.8解説	1～2行目 …、各杭とも杭先端の境界条件により異なる値を持ち、 <u>図-解12.6.2</u> により求めることができる。	…、各杭とも杭先端の境界条件により異なる値を持ち、 <u>図-解12.6.1</u> により求めることができる。	図-解12.6.2 →図-解12.6.1	次回の増刷時に修正
P427 図-解12.9.3			補助線及び記号「h」の追加	第2刷で修正

ページなど	誤	正	備考	摘要
P.428 図一解 12.9.6			15mm 以上 → 15mm 以上かつ杭 体内補強鉄筋径以 上	
P553～554 18.8解説	P553最終行からP554 1行目 なお、ずれ止めの現場溶接はずれ止め上面のを全周 すみ肉溶接とする。	なお、ずれ止めの現場溶接はずれ止め上面の全周す み肉溶接とする。	「を」を削除	第2刷で修正
P529 15.8.3解説	最終行から2行目 (2)深礎基礎の耐力及び変位は、…	(2)深礎基礎の断面力及び変位は、…	耐力→断面力	第3刷で修正
P530 15.8.3解説	11から12行目 …, 式(解11.8.11)により求める受働土圧強度とする。	…, 式(解11.8.11)により求める。	「受働土圧強度とす る」を削除	第3刷で修正
p.576 20.1解説	2段落目 1行目 打込み工法(打撃工法, バイブロハンマ工法)又は中 掘り工法	打込み杭工法(打撃工法, バイブロハンマ工法)又は 中掘り杭工法	ここは18章の工法 を指しているため	次回の増刷 時に修正
P577 20.3解説	最終行 また、中掘り杭工法の場合、導材は…	また、中掘り工法の場合、導材は…	「杭」を削除	第2刷で修正
P578 20.3解説	1行目 …自沈を防ぐため、杭先端部の根固めを行うまで杭を 一定の高さに保持…	…自沈を防ぐため、鋼管矢板先端部の根固めを行う まで鋼管矢板を一定の高さに保持…	杭→鋼管矢板	第2刷で修正

ページなど	誤	正	備考	摘要
P609 参考資料4	最終行から61行目 …、橋台背面アプローチ部内部 <u>に</u> 水が滞らないよう に…	…、橋台背面アプローチ部内部に水が滞らないように …	「の」を削除	第3刷で修正
P612 参考資料5	10から15行目 (3)引張側の配力鉄筋は引張主鉄筋の1/4以上を標準とする。 ただし、斜角を有する場合のうち、斜角が60° 以上の場合は次による。 a) <u>引張鉄筋側の配力鉄筋は引張鉄筋の2/3程度とすることを標準とする。</u> b) <u>圧縮側鉄筋は引張鉄筋の1/3以上とし、配力鉄筋は引張鉄筋の配力鉄筋の1/2程度を標準とする。</u> <u>また、斜角が60度未満の場合はその影響を別途検討する。</u>	(3)引張側の配力鉄筋は引張主鉄筋の1/4以上を標準とする。 ただし、斜角を有する場合のうち、斜角が60° 以上の場合は <u>引張側の配力鉄筋は引張主鉄筋の2/3程度とすることを標準とする。また、斜角が60° 未満の場合はその影響を別途考慮する。</u> (4)圧縮側の主鉄筋は引張主鉄筋の1/3以上とし、 <u>配力鉄筋は引張側の配力鉄筋の1/2程度を標準とする。</u>	a),b)に関する記載を修正	次回の増刷時に修正
p.624 参考資料9	1行目 表-解 12.4.5	表-解 12.4.6		次回の増刷時に修正